

中心市街地活性化における路地活用と地域間連携に関して  
～全国路地サミット in おがの 2012 と「埼玉路地まち倶楽部」設立～

実査日：平成 24 年 6 月 2 日

報告者：財団法人都市化研究公室研究員岩間真二

1. はじめに

小鹿野町(おがのまち)は、埼玉県の北西部に位置し、秩父盆地のほぼ中央に市街地を形成している人口およそ 13000 人の町である。小鹿野町の歴史は古く、約 1000 年以上前の平安時代中期に編さんされた「和名抄」に記されている「巨香郷こ(お)かのごう」が小鹿野の始まりといわれる。

町制施行も県内では川越に次いで古く、中心部の小鹿野地区は県内でもいち早く教育・交通・産業の振興など各分野で近代化が進められ、西秩父地域の中心地として発展してきた。

また、小鹿野といえば歌舞伎のまちとして知られています。役者から裏方まで全て住民が行うのも全国でも珍しく、地芝居として小鹿野歌舞伎は高い評価を受けている。

鉄道網がないことや、都心地域から遠いこと、蚕糸業などの衰退によって人口が減りつつある地域である。近年ではオートバイによるまちおこし事業など活性化に力を入れている。また中心市街地の活性化のため近年まち歩きによる地域振興も行っており、3 年前より路地 ST として毎年開催されている。それを発展させる形で今年全国路地サミットが開催される。

そこで、『全国路地サミット 2012 in おがの』は、全国に路地を通じたまちづくりの発表を行うとともに、参加者交互の交流を行うことにより、路地の魅力を通じたまちづくりの必要性の確認と、路地の魅力再発見を目的に行われる。

本稿では、路地サミットおよび、シンポジウムで設立された埼玉路地まち倶楽部設立を題材に、路地の活用及び地域連携について考察する。



小鹿野 街衆歌舞伎

## 2. 全国路地サミット in おがの 2012

- 概要

全国路地サミット in おがの 2012 は平成 24 年 6 月 2 日・3 日にわたり開催された。

スケジュールは以下の通り。

### 6 月 2 日 (土)

13:00 受付開始 小鹿野文化センター

13:30 開会・歓迎・あいさつ：全国路地サミット in おがの実行委員長

小鹿野町 福島弘文町長

あいさつ：埼玉県産業労働部長 松岡 進氏

13:50 全国路地のまち連絡協議会の活動報告 今井晴彦氏

14:00 昨年サミット開催地報告（東京都墨田区）

14:10 シンポジウム 基調講演

部：写真家から見た小鹿野の路地（フォトジャーナリスト 山口清文氏）

部：小鹿野の路地歩きの魅力（里山案内人 服部義雄氏）

部：美人女将が育った小鹿野の路地（須崎旅館 須崎真紀子氏）

15:10 パネルディスカッション

・おがの路地まち研究会 W 京子氏（高橋京子氏、渋谷京子氏）

・蕨市にぎわいまちづくり連合会 池上智康氏

・妻沼まちづくり工房 高柳紀子氏

・飯能商工会青年部会長 梶田博之氏

16:40 調印式

「埼玉路地まち倶楽部」設立調印式 埼玉県からの応援メッセージ：

埼玉県産業労働部長 松岡進氏

16:50 シンポジウム総括：全国路地のまち連絡協議会 世話人 小澤一郎

氏

閉会あいさつ：埼玉県議会議員・西秩父商工会長 岩崎 宏氏

17:00 閉会

### 6 月 3 日 (日)

10:00 路地 S T . in おがの開会 自由見学 街なか

10:30 まち歩き（午前の部）参加費：500 円

13:30 まち歩き（午後の部）参加費：500 円

16:00 路地 S T . in おがの終了 解散

- シンポジウム

シンポジウムは、まず地元の方の基調講演から始まり、小鹿野の路地の魅力について基調講演が行われた。



会場：小鹿野町文化センター

写真家の方、里山案内人として活躍する歴史に詳しい元小学校の校長先生、小鹿野生まれ小鹿野育ちの旅館の若女将と多彩な人たちによる小鹿野の路地の魅力が語られた。



基調講演の様子



基調講演の様子



基調講演の様子

基調講演を通じて、路地の魅力が語られたが小鹿野の路地は生活とそこにまつわる人が魅力となっていることが語られた。

続いて、パネルディスカッションが行われ、小鹿野町、蕨市、妻沼市、飯能市それぞれの地元で路地、まちなかで活動している人により行われた。



パネルディスカッション



会場の様子

パネルディスカッションでは、埼玉県内で活動するなかで、路地という視点で考えていくことが重要であるという認識で一致した。

- 埼玉路地まち倶楽部の設立

パネルディスカッション終了後、埼玉路地まち倶楽部の設立調印式が行われた。

パネルディスカッションに参加した4団体により、路地という視点でまちを元気づけていくということ、その動きを連携・交流しながら広めていこうという点が強調された。

『埼玉路地まち倶楽部』設立趣意書

まちづくりの推進にあたっては、固有の歴史・文化に基づくそれぞれのまちの個性づくりが必要です。

まちの歴史や生活を見続けてきた路地は、まちの成り立ちの語り部であるとともに、かけがえのない資源です。

埼玉県内のまちには、多くの路地が残されており、路地を活用した多彩なまちづくりが展開されています。

路地を地域資源として活動する県内のまちづくり団体が連携・交流し、相互に啓発・協力することにより、それぞれのまちづくりの効果的な実施を図るとともに、埼玉県における活力あるまちづくりの推進を図るために、『埼玉路地まち倶楽部』を設立します。

『埼玉路地まち倶楽部』は、路地を地域資源として活動するまちづくり団体の相互交流を通じて、埼玉県におけるまちづくりネットワークの拡充を図ります。



調印式

- 路地 ST.

シンポジウムの翌日は、路地 ST.としてまちなかで、路地を活用した様々なイベントが行われた。午前中はあいにくの雨であったが多くの人が出ていた。

路地 ST.は2009年より4回目を数えており、地元の話によるとそれなりに認知が出来ており、外部の人も訪れるようになってきているとのことである。



路地 ST.チラシ

路地 ST.では、ライブ、歌舞伎の開催、写真展や、住民の作品を路地に展示する路地アート、屋台をはじめ、まちあるきなども行われた。

当日の天気はあいにくだったが年々、地域に定着しているとのことである。



路地アート



まち歩きの様子

### 3. 考察

路地サミット 2012in おがのに参加して、筆者自身は2度目の小鹿野訪問となるが、初回訪問時より地域の人々の自主的な取組が、街に活気を与えているように感じた。それに合わせ、まちを訪問する人が徐々にではあるが増えているようである。

小鹿野自体は、通常で考えるなら鉄道交通もなく（秩父駅からバスで40分ほどかかる）交通手段は主なものとしては車であるため、外部から人を寄せるのは非常に難しい立地であると考えられる。

それを超えて人を呼ぶためのなんらかの仕掛けが必要なのは確かであり、他社との差別化も必要となれば、まちの歴史性や路地といったすでにある特徴的な資源や、歌舞伎などの資源を融合したものとして開催してきた路地 ST.などは効果的であったと言える。

今回、『埼玉路地まち倶楽部』が設立されたことは、今後活動する場の広がりとともに、他団体との交流による外部刺激を地域の人々が受けること、他団体の活動へ出張していくことで、各団体それぞれのアピールや広報をすることで、より地域の魅力の拡散能力が向上していき、訪問してくる人が多くなっていき、地域活性化の上昇スパイラルが促進する効果を発揮し、今後の相互連携への期待するものである。



ポスター



会場で行われた埼玉の路地展